

市内では250カ所を超える遺跡が確認されています。平成30年度に行った発掘調査9件、試掘・確認調査28件のうち、2件の調査成果を紹介します。

本證寺 境内 (野寺町)

本證寺は三河一向一揆の中心的な拠点となった寺院で、国指定史跡です。二重の堀に囲まれ、土塁も構築されていました。平成30年度は外堀の東側で調査を行いました。

発見 01 外堀の外側に溝が！ いったい何のための溝？

これまで推定復元していた外堀の外側に、新たに戦国時代の溝(幅5m、深さ約1.3m)を確認しました。外堀の外側でこのような溝が見つかるとは全くの想定外でした。

溝は西へ向かって折れ曲がっているように見受けられます。この形状と、溝が寺内の出入口付近にあることの二つの理由から、「横矢掛(よこやがけ/門から侵入しようとする敵を側面から矢や鉄砲で攻撃するための、外側に張り出した構造物)」が設けられた可能性も指摘されます。



発見 02 火縄銃の弾丸

今回の調査では火縄銃の弾丸(下写真)が出土しています。三河一向一揆において本證寺での合戦の記録はありませんが、戦の準備がされていたのでしょうか？詳しくは不明



ですが、貴重な発見となりました。

これまで外堀と考えてきたエリア(この部分は池として残る)



島中和久撮影

奈良大学教授
せん だよひろ
千田嘉博氏

家康が西三河の防衛ラインを形成したのでしょうか？

今回見つかった溝が「横矢掛」だとすれば、年代的には1560~80年代のもの。小牧長久手の戦い(1584年)後に、徳川方が西三河の城を改修した時期と重なります。

三河一向一揆後に家康により追放されていた坊主衆や寺内の住人達が、本證寺に戻ることを許されたのが1585年です。小牧長久手の

戦い後、西からの豊臣方の脅威に対して、家康がかつての敵を許し味方につけ、本證寺を含めた西三河の城を改修する事で、西三河に防衛ラインを形成したのでしょうか？

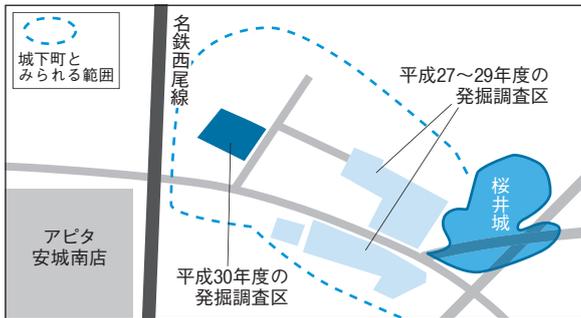
本證寺の総構えは非常に実戦的です。中でも攻防の要の出入口の防御を固めた様子がこの調査から浮かび上がります。

発見 03 溝の上に江戸時代の道路

江戸時代には、今回の調査で発見した溝を一部埋める形で道路が造成されていたことがわかりました。寛政年間(1789-1801年)に描かれた伽藍絵図にも「寺領村道」と示されており、三河一向一揆後の本證寺周辺の様子を確認できました。



城向遺跡は、桜井松平家の居城だった桜井城跡の西に広がる集落跡で、古代集落や戦国時代の大型の溝等が見つかっています。平成30年度は名鉄西尾線の高架に近い場所で発掘調査を行いました。



発見 01 桜井城の城下町は広がった！

桜井城の城下町は城の周囲のみかと考えられてきましたが、本調査で、城から離れた場所で戦国時代の区画溝(土地を区切る溝)と複数の井戸を確認。さらに西へ広がっていたことがわかりました。区画溝は屋敷地を区画したとみられ、二重に巡らされていました。



①区画溝



②二重の区画溝と井戸跡

桜井城は、徳川家康が関東に移る1590年まで、安城松平家から分出した桜井松平家の居城として存続しました。江戸時代に描かれた絵図や地籍図等から、現在の城山公園と靖霊神社が城跡にあたりと考えられます。これまで桜井城周辺で調査してきた場所は、絵図に「昔ハ士(さむらい)ヤシキ」と記された部分とみられ、調査ではそれに見合った遺構

や遺物が見つかりました。



文化振興課埋蔵文化財専門員 石原奈緒子

発見 02 珍品出土！

溝や井戸から、数点の珍品が出土しました。魚をかたどった陶器の水滴は、書道に使われる水差しです。香炉等も出土しました。いずれも庶民の集落ではなく、武家屋敷等から出土するもの。これらから、この地は桜井松平家に仕えた家臣等が住んでいた屋敷地だったのではと考えることができます。

①魚型の水滴(江戸初期) ②香炉(戦国時代) ③鍋類(戦国時代)



文化振興課からの
お願いとお知らせ

家を建てる際は一報を

遺跡は、安城市で暮らし
た私達の祖先の歩みを記憶
した、かけがえのないもの
です。市では、開発等であ
むを得ず破壊される遺跡を、
法律に基づき事前に発掘調
査しています。住宅建設等
の開発工事を行う計画があ
れば、文化振興課までお知
らせください。

調査成果を展示

今回紹介したものは、埋
蔵文化財センターで展示し
ています。調査や展示品を
紹介するパンフレットも無
料で配布しています。ぜひ
ご覧ください。

●展示日時 (火)～(日)午前9
時～午後5時(月曜日が祝
日の場合は開館)
※年末年始を除く。

